

年(三十七年)漢、伊吾盧を取るに及び車師再び漢に通ず。匈奴怒り大舉して來り攻む、車師復た匈奴に降る。永元二年(九十年)大將軍竇憲匈奴を破るや、車師畏れて其子を入侍せしむ。同八年、後王涿鞮前部王を撃ち、妻子を虜とす。翌九年、漢王林を遣し、討て涿鞮を斬り、其弟農奇を立て、王と爲せり。安帝の永寧元年(百二十年)後王、長吏索班を撃殺す。建光四年(百二十四年)班勇柳中に屯し、兵を放つて後王を獲、索班の沒せし處にて斬り、故王の子、加特奴を王と爲す。陽嘉三年(百三十五年)車師、司馬、後王の兵を發し、匈奴を閻吾谷に撃ち、單于父子親戚等數百人、及牛羊兵器を獲たり。桓帝の永康元年(百六十七年)後王阿羅多反いて屯田及び固城を攻む。漢兵逆撃、阿羅匈奴に走る。漢故軍就の子卑君を立つ、阿羅多還て卑君と争ふ。降て三國の世(二百二年)には蒲類國に屬し、北魏の時(四百年)高車と爲りて蠕蠕に屬し、周の代(五百年)突厥と爲る。隋の煬帝大業四年(六百年)兩突厥の處羅厚斂(チヨラコイカン)、其弟闕達(チユイタシヨト)、特勒大柰(トクダイ)と共に入朝し、後、處羅厚斂は高麗の討伐に従ふて功あり。隋彼を曷那汗(ホナナカン)に封じ、抑留して還さず。國人薩那(サナ)の叔父を立て、射匱可汗(シヨクイ)とす。射匱可汗、土壤を開き、東は金山(今の阿爾泰山)より西は海(今の巴爾喀什湖)に至るまで、皆之を有し、玉門以西の諸國服屬せざるは無く、唐の